

救急医学

1 構成員

	平成19年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	1人（1人）
助手（うち病院籍）	3人（2人）
医員	4人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	11人

2 教員の異動状況

- 青木 克憲（教授）（H14. 11. 16.～現職）
 吉野 篤人（助教授）（H17. 6. 1.～現職）
 河野 智（助手）（H17. 8. 1～H18. 9. 30）
 安田日出夫（助手）（H18. 10. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成18年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6編（2編）
そのインパクトファクターの合計	18.98
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	5編（5編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Yasuda H, Yuen PS, Hu X, Zhou H, Star RA. Simvastatin improves sepsis-induced mortality

and acute kidney injury via renal vascular effects. *Kidney Int.*69:1535-42.2006, [4.927]

2. 青木克憲, 吉野篤人, 山田信幸, 佐藤 潤, 間遠文貴. 新臨床研修制度における救急医療研修の評価, *日本救急医学会中部地方会誌* 2;1-4, 2006
3. 青木克憲, 吉野篤人, 山田信幸. 輪番制病院群における救命救急センターの役割. *日本救急医学会雑誌*17(7);269-271,2006

インパクトファクターの小計 [4.93]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 1. Zhou H, Pisitkun T, Aponte A, Yuen PS, Hoffert JD, Yasuda H, Hu X, Chawla L, Shen RF, Knepper MA, Star RA.Exosomal Fetuin-A identified by proteomics: a novel urinary biomarker for detecting acute kidney injury.*Kidney Int.* 70:1847-57. 2006, [4.927]
2. Zhou H, Yuen PS, Pisitkun T, Gonzales PA, Yasuda H, Dear JW, Gross P, Knepper MA, Star RA.Collection, storage, preservation, and normalization of human urinary exosomes for biomarker discovery. *Kidney Int.* 69:1471-6. 2006, [4.927]
3. Zhou H, Fujigaki Y, Kato A, Miyaji T, Yasuda H, Tsuji T, Yamamoto T, Yonemura K, Hishida A.Inhibition of p21 modifies the response of cortical proximal tubules to cisplatin in rats.*Am J Physiol Renal Physiol.* 291:F225-35. 2006, [4.199]

インパクトファクターの小計 [14.05]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 安田日出夫 菱田明：薬物性腎障害の病理. *ICUとCCU* 30 (12)：987-991, 2006
2. 青木 克憲, 吉野 篤人. 創傷処置. *外科治療*. 94, Suppl.401-408,2006
3. 青木 克憲. 組織酸素代謝反応と酸素代謝失調の改善. *救急医学* 30(9):1091-1096, 2006
4. 青木 克憲. 食道穿孔. *救急医学* 30(11);1479-84,2006
5. 青木 克憲. Sequential organ failure assessment(SOFA)。救急医学 31(3):328-329,2007

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成18年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成18年度
(1) 文部科学省科学研究費	1件 (190万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)

(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	5件 (198万円)

(1) 文部科学省科学研究費

研究代表者 青木 克憲, 共同研究者 間賀田 泰寛, 吉野 篤人, 山田信幸
 基盤研究 (C) 「Tissue dysoxiaの画像解析とその蘇生」 190万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	2件
(3) 学会座長回数	0件	8件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	0件	12件
(6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 第4回日本救急医学会中部地方会を主催 (浜松アクトシティ, 平成18年12月9日)

3) シンポジウム発表

1. 青木克憲。東海大地震発災時の市民との医療連携 第34回日本救急医学会 平成18年11月1日 福岡
2. 青木克憲。地域医療救護計画のあり方 第10回日本集団災害医学会 平成19年1月19日 名古屋

4) 座長をした学会名

- 青木 克憲：
1. 第8回日本臨床救急医学会総会 盛岡 平成18年5月
 2. 第20回日本外傷学会総会 名古屋 平成18年5月
 3. 第32回日本熱傷学会 仙台 平成18年6月
 4. 第34回日本救急医学会総会・学術集会 福岡 平成18年11月
 5. 第25回日本蘇生学会 浜松 平成18年12月
 6. 第4回日本救急医学会中部地方会 浜松 平成18年12月
 7. 第12回日本集団災害医学会 名古屋 平成19年1月
 8. 第42回日本腹部救急医学会総会 東京 平成19年3月

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

青木 克憲：日本救急医学会 評議員, 専門医認定委員会委員
 日本臨床救急医学会 評議員

日本救命医療学会 評議員，編集委員
 日本熱傷学会 評議員，専門医認定委員会委員
 日本SHOCK学会 評議員，監事
 日本腹部救急医学会 評議員
 日本外科代謝栄養学会 評議員，用語委員会委員
 日本血液代替物学会 評議員
 日本消化器病学会東海支部 評議員
 日本DIC研究会 評議員
 日本救急医学会中部地方会 理事
 日本熱傷学会東海地方会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1件	0件

(1) 国内の英文雑誌の編集

日本救命医療学会（邦文）

9 共同研究の実施状況

	平成18年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成18年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. Tissue dysoxiaの蘇生に関する研究

tissue dysoxiaは、細動脈まで運ばれてくる酸素含量の変化（DO₂）に対応して酸素の取り込みを調節する機能が低下する結果、組織の要求する酸素量が満たされず酸素負債を生ずる状態と定義される。現在、spectrophotometric analysisおよび組織酸素分圧計により、組織における酸素摂取率（Oxygen Extraction Ratio：O₂ER），組織静脈酸素分圧較差（Oxygen Gap：O₂Gap），組織酸素分圧（PtO₂）の3者を測定し、細胞内酸素負債を推定する検討を行っている。平成16～17年度の科研費により、微小循環不全による動静脈シャントのメカニズムを追及した。平成18～19年度は、tissue dysoxiaの画像解析と人工酸素供与体による微小循環蘇生法の有用性を実験的に検討している。

2. 侵襲下における凝固線溶系の変動

外傷・熱傷による外科的DIC病態を種々のメディエーターとの関連から検討し、炎症反応の制御をいつ開始すべきか、そのtherapeutic windowを追及している。

3. 広範囲熱傷における大量輸液療法の再検討

広範囲熱傷の初期大量輸液療法について、酢酸リンゲル液の有用性を示すデータが得られたので、今後も症例数の増加に努め新たな輸液療法の指針を追及する。

4. BLS啓発活動

BLS (Basic Life Support, 一次救命処置) は、日常生活の中で突然生じる健康危機に市民が即座に判断し、とるべき行動をまとめたプログラムである。われわれは、静岡県内の医療従事者のみならず、学童生徒、中高生、大学生、その啓発活動に努力している。

5. 救急初療技術の標準化に関する啓発活動

ALS (Advanced Life Support), ICLS (Immediate Cardiovascular Life Support), JPTEC (Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care), JATEC (Japan Advanced Trauma Evaluation and Care) で構成される救急初療技術の標準化に関する啓発活動を静岡県内で精力的に進めている。

6. 東海地震における市民との医療連携

来るべき東海地震に備えて、公的救助を期待できない発災直後 (phase0) における浜松市各自治会自主防災隊員の現場救護、トリアージ、搬送手段の啓蒙活動を、訓練を通じて実践している。

15 新聞、雑誌等による報道

1. 静岡新聞 平成18年7月2日 救急処置の普及重要
2. 静岡新聞 平成18年7月2日 形成外科の腕を生かす
3. 中日新聞 平成18年11月27日 住民、医師一体で救護手順しっかり
4. 静岡新聞 平成19年1月1日 発災後24時間は住民主体
5. 中日新聞 平成19年2月4日 大規模災害時の初期医療を学ぶ
6. 静岡新聞 平成19年2月4日 震災想定しトリアージ 自治会と初の合同訓練